学　会　消　息

1.　メルボルンで南極気象シンポジウム

オーストラリアのメルボルンで，科学学士院と気象局の共催になる南極気象シンポジウムが，明年はじめに開かれる由．

2.　台風11第号関東に来襲

内南洋に発生し，14日15時マリアナの南方通過頃台風となった第11号（アリス）は，沖の鳥島南方海上までは北西に進み，その後北に向い，20日20時ごろ南大東島のすぐそばを通り，これから転向して北東に進路をとり，23日6時ごろ静岡県御前崎に上陸した．その後，台風は宇都宮，白河，仙台の付近を通って23日午後太平洋にぬけ，北海道の東端をかすめて，24日オホーツク海に入った．

東京，横浜などは昭和24年のキティー台風以来の暴風雨にあい，また1.14mの高汐を観測した．このため中川堤防が決潰し，亀戸，平井，吾嬬町などでは浸水した．

3.　日本地球物理学会連合懇親会

去る5月27日日高孝次氏（日本海洋学会々長）邸で日本地球物理学会連合の昭和32年度事業報告が海洋学会からなされ，次の当番学会は火山学会に決定された．その後懇親会が行われ，久野久氏のカナダ，アメリカ土産のスライド，文部省製作の南極の映画が上映され非常に盛会であつた．

支　部　だ　よ　り

北海道支部だより

昭和33年度第1回講演会開催さる

去る7月4日午後2時より札幌管区気象台会議室において，北海道大学の東晃氏をお招きして〝米国とカナダにおける雪氷研究の現状〟と題してお話をおうかがいした．氏は先年来米国 SIPRE（雪氷永久凍土層研究所）において御研究，先頃カナダのトロントで開催されたIUGG の会議に御出席，最近御帰朝になりました．

「最近急速に発展している米国およびカナダの雪氷研究は，グリーンランドの戦略的な価値とか，中距離弾道弾等に対するミッドカナディアンラインと称されるレーダー網建設，あるいは航空機の雪氷上着陸，その他浮氷対策というような国防上の必要からの理由がまず第一で，第二にはカナダ，アラスカ等高緯度地方の森林資源，石油，金，ウラニウム鉱等の鉱物資源，その他高冷地農業の開発のための基礎研究の必要上からであり，第三には航空機あるいは高度に発達した自動車交通路等の安全輸送あるいは世界市場に大きな変革をもたらすであろうといわれているセントローレンス河水路開発計画に関係する結氷流氷の問題．雪氷の直接的資源としての利用の問題があり，第四にはIGY関係のプログラムとしての雪氷の研究および以上を含んだ基礎研究という四つの大きな目標が最近の研究の進歩に拍車をかけている」とまず雪氷研究の背景についての話から初まり，次いで「この様なバックグランドに対して米国の SIPRE の組織，そこで行われている雪氷の物理的性質，レオロジー的研究，土木工事等との関係．ホートンにある実験場の様子．あるいは米国のもう一つの研究組織 ACFEL における凍上の研究．カナダのオッタワにある建築研究所その他道路の除雪の問題と取り組んでいるミシガン大学，あるいは米国地理調査所で行っているロッキー山脈の氷河の研究．サンディエゴの海軍の電子工学研究所における海氷の研究」等を百数十枚のスライドによって紹介された．

なお最後に IUGG の感想がのべられたが「アメリカカナダにおいては上述の様な大きな目標のもとに，基礎研究がどんどん利用されているのに比較して，学問的ポテンシャルとしては非常に高い日本の雪氷研究も，応用されるバックグランドの小さいのが非常に物淋しい」とのことであった．

参会者百名で盛会であった．